

奈良県川上村の観光情報が満載！

第18号

2026年夏

ひとめぐり かわかみ

この写真は、川上村人知にある
旧中学校のプールに写る空の写真です。
昭和56年に開校し、
令和6年「かわかみ源流学園」が出来るまでの間、
多くの中学生たちとたくさんの思い出をつくってきたことでしょう。

令和7年9月2日撮影

撮影者：和島壮太(地域おこし協力隊R.8年3月卒業)

Kawakami Information

169号 夏景色 川上村の夏は何を感じさせてくれるでしょう。



6月

鮎釣りが解禁されます。大滝ダムの本体工事が始まるまでは、吉野川本流を中心に多くの釣リファンで賑わいました。柿の葉寿司が新しい葉に包まれて店頭に並び出します。新緑から深緑へと変わっていく中でガクアジサイやコアジサイなどが梅雨の雨に打たれて鮮やかに咲いています。雨の合間を狙って玉ネギやジャガイモを掘る風景が見られます。ササユリの可憐な姿は見られなくなってきました。昨年から異常な渇水が続いていますが、梅雨が恵みの雨をもたらしてくれるでしょうか。

7月

夏野菜の収穫が朝のルーティーンとなっています。池では睡蓮が咲き、葉の上でカエルが休んでいます。シカやイノシシが近づけない場所には、ヤマユリが咲いています。梅雨が明け、夏休みになると川は子どもたちの声があちこちの川原で聞こえました。

鮎も大きくなってより美味しくなります。また、中奥川の鮎の味がいいと評価されています。

8月

水の恵みに感謝する季節です。川上村ではお盆の前には集落の中をみんなが出て清掃活動を行います。山仕事で使う山道の草刈りや集落内の排水溝などをきれいにします。お盆を過ぎると急に秋らしく感じるようになりますが、最近はいつまでも真夏日が続いて白菜や大根の種まきを躊躇してしまします。

アカショウビンのキュロロローと鳴く声から
カジガエルの高音の涼しげな鳴き声、
アブラゼミの「ジッ・ジッ・ジッ・・・」と鳴き始め、
「ジリジリジリ」と暑い鳴き声。
ヒグラシの声、盆トンボまでの季節の移り変わり、
粽(千マキ)やでんがら、鮎の塩焼きを食べると「あ〜夏やな」と、
川上村の夏を感じに来ませんか？

高原

川上村役場から林道高原洞川線を上り、丹生川上神社上社を越えてまだ上っていくと平な場所に到着します。この道をなおも上っていくと天川村の洞川へ続いています。高原は、元々吉野山から大峰山に続く大峰奥駆け道沿いに出来た集落が徐々に下に下がって出来たものと言われていいます。村でも大きな集落の一つです。文化的にも独特のものが残っている。8月15日の「ちんごかんど」と呼ばれるお盆の行事は村の他の集落では無いものです。秋祭りも独特のお餅撒きが行われます。



大天井滝



ログキャビン高原



ちんごかんど

旧白屋地区

役場から上流に向かい短いトンネルを2つ越えると、大きな「白屋橋」が対岸に掛かっています。橋を渡って右に上っていくと旧白屋地区に着きます。(ゲートがあります) 大滝ダムで移転した集落跡地ですが、対岸から見た時に家屋が建っていたところはきれいな石積みがされていて、このまま放置して山になっていくのは忍びなく、「ダム事業の痕跡を残し、この美しい景色を未来に残そう」ということで整備され、企業の協力も得ながら「未来への風景づくり」の場所となっています。



未来の風景づくり

人知

旧白屋から国道に戻り、すぐに人知地区になります。人知には昭和56年から令和6年まで川上中学校がありました。(表紙のプールの場所) 「あつまり食堂」が出来て、お昼ご飯を食べに人が来る場所になりました。国道対岸の岩が切り立つ壁のようなところに、雨の日だけ現れる滝があります。冬場にはダム湖にオシドリやカモが浮かんでいる時があるようです。



あつまり食堂

井戸

国道から眺める対岸の紅葉が本当にきれいで、多くの人が写真に収めたことでしょう。その場所が、深緑になっていくのもきれいです。「上村オトリ店」があります。お店の前から対岸に渡る「井戸橋」があり、井戸から武木までの対岸道路があります。通行は出来ません。



井戸紅葉

武木 井戸から5分ほど車で走ると武木土場に着きます。そこから対岸に渡る「武光橋」を渡り左へ上がると武木地区があります。この道は隣の東吉野村と峠越えでつながっています。



秋祭り

武木地区の秋祭りは10月ですが、前日からのお餅つきから始まり神輿を担ぎだし、餅撒きで終わるにぎやかに伝統を守っているお祭りです。立派な神輿です。歴史的には天誅組の通った道であり、一夜の宿を提供したとの言い伝えが残っています。

井光 武木と反対に上がって行くと、井光地区があります。川上村では、古くから集落ができた場所とも言われています。

古事記に神武天皇の東征の時に井光で「井氷鹿」に出会う話が登場します。その井戸跡と言われる場所があります。「井氷鹿の里」ではアマゴの養殖場と釣り堀があり、釣って塩焼きにして食べられる施設があります。「井氷鹿の里」から林道を山中へ進むと氷瀑で有名な「御船の滝」があります。



井氷鹿の里



御船の滝

下多古 「武光橋」から国道を南へ走ると下多古地区があります。下多古川沿いに上がって行くと集落が見えますが、今では数軒が生活をしている状況です。中ほどに天手力男神社があり、向かいに「NuuN camp」があります。林道を上りそこから山道を40分ほど歩いた先に「琵琶の滝」があります。高さ50mとされています。



琵琶の滝

道の駅横の観光案内所である「かわかみ源流ツーリズム」に立寄って詳しくお尋ねください。

- 高原**
- 1 ログキャビン高原
 - 2 大辻商店ごんにやく
 - 3 貝谷製麺所
 - 4 ぱくぱく館
 - 5 TocoTocoの森
 - 6 大天井滝
 - 7 南帝王陵
 - 8 十二社神社氏神社
 - 9 福源寺
- 旧白屋**
- 10 未来の風景づくり
 - 11 幻の滝
 - 12 八幡神社跡社叢
 - 13 玉龍寺跡
- 人知**
- 14 あつまり食堂
 - 15 旧川上中学校
 - 16 十二社神社
 - 17 長福寺
- 井戸**
- 18 上村オトリ店
 - 19 かわかみSS
 - 20 十二社神社
 - 21 玉峰寺



- 武木**
- 22 十二社神社の祭り
 - 23 青林寺

- 井光**
- 24 やすらぎの里泉山荘
 - 25 井氷鹿の里・もりもり館
 - 26 川上村養魚場
 - 27 井光神社
 - 28 観音寺
 - 29 御船の滝
 - 30 岩戸の滝

- 下多古**
- 31 NuuN camp
 - 32 宗像神社
 - 33 天手力男神社
 - 34 龍泉寺
 - 35 琵琶の滝
 - 36 中の滝
 - 37 歴史の証人

村の歳時記 6～8月

行事

花・鳥・虫カレンダー

6月

初旬

- アユ釣り解禁
- 端午の節句 (1月遅れ)
アユの季節が始まります。
アユ料理はどこで食べられるの?



杉 ホテル杉の湯では「吉野川清流プラン」で塩焼きと唐揚げが食べられます。
朝日館では「アユ尽くし」の料理が、「かわかみ源流ツーリズム」の事務所前ではアユの塩焼きが販売されています。(土日祝販売・ホームページで確認を)

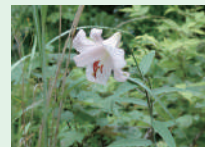
- 7日 ● 山の神祭り (1月、6月、11月の7日)

20日 **森** 吉野川紀の川しらべ隊「川上村のコケをしらべよう」

27～28日 ● 「第1回絵巻巡礼 川上三十三霊場」ツアー開催予定



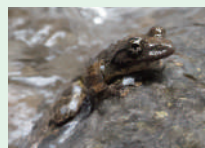
ウツギ



ササユリ



ゲンジボタル



カジカガエル



オオルリ

7月

- 4日 ● 夏越大祓並七夕燈籠祭 (丹生川上神社上社)



5日 **森** 森里交流会「葛城川源流の生きものにとくらべよう」

- 7日 ● 七夕

- 20日 ● 「海の日」・奈良県「山の日、川の日」
● かわかみ源流ツーリズム4周年



ネムノキ



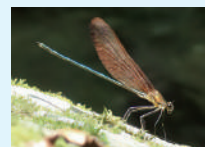
ホタルブクロ



ヤマユリ



ミヤマクワガタ



ミヤマカワトンボ

8月

- 1日 ● かみせ祭り (予定)

11日 ● 「山の日」
森 夏休みワークショップ大集合!



- 15日 ● お盆
● 「法悦祭(ちゃんごかんご)高原」
ツアー開催予定



16日 **森** 吉野川紀の川しらべ隊「夏の生きものをしらべよう」

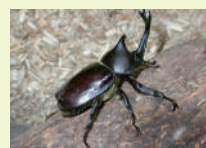
31日 **森** 源流学の森づくり
「源流地域の森林保全作業 一水源地の森林内歩道整備」



イワタバコ



カワチブシ



カブトムシ



タマムシ



ミヤマウズラ

森 森と水の源流館 **匠** 匠の聚 **杉** ホテル杉の湯

次回秋の情報です。

歳時記の深掘り

「川上荘三十三霊場絵巻」を探る

大阪工業大学情報科学部情報システム学科 准教授 博士(文学)

横山 恵理 氏



東川運川寺



大滝龍泉寺



西河徳蔵寺

川上村東川の運川寺で大切に守られている寺宝のひとつに『川上荘三十三霊場記』(以下、『霊場記』)があります。運川寺第十六世・白龍禅師が川上村内三十三ヶ寺を巡って詩と詠歌を作り、鳥居興範に絵図を、藤原信正に書をそれぞれ依頼し、文政12年(1829)に作成したものです。このたび、川上村・大阪工業大学連携事業を通して『霊場記』とのご縁をいただき、全巻の翻刻を実施、報告させていただきました(『大阪工業大学紀要』第69巻第2号、2025年1月発行)。今回は『霊場記』の概要をご紹介します。

西国三十三ヶ所は日本で最も歴史ある巡礼の道として、多くの人々に親しまれています。その歴史は平安時代に始まり、室町時代に密教を背景として盛んになり、江戸時代に至って、場所、順位が一定しました。江戸時代に入ると、西国三十三観音を模した大小様々な地方霊場が日本中に無数に生まれました。人々が日常的に巡礼の場を求めたためです。

けれども、三十三ヶ所を巡礼するには、まず体力が必要。財力も精神力も求められます。多くの人々が三十三ヶ所を巡りたいと願っても、簡単に許されるものではなかったでしょう。『霊場記』識語には、運川寺第十六世・白龍禅師が運川寺に住していた際、もともとは追善慈母の願いを込め、西国三十三ヶ所を模して川上村内三十三ヶ所に観音様を敬い置いたものを基とし

て、三十三ヶ所にお参りできない人々のために霊場記として制作したと記されています。

『霊場記』には、塩野波・伯母谷・上谷・上太古・柏木・神野谷・和田・白川渡・下多古・井光・武木・井戸・人知・白屋・高原・迫・塩谷・寺尾・大瀧・西河・東川に所在する三十三霊場が、絵と漢詩、和歌とともに描かれています(各大字名の表記は『霊場記』本文によるものです)。和歌には「かしは木や松のみどりも常盤なる ほとけのみさほ見るぞうれしき」(第五・柏木松雲寺)の「柏木」「松」のように、地名や寺の名前が詠み込まれています。また、三十三霊場すべてに絵を描くということは、手間と時間と費用がかかるものでした。それでも絵を付した背景には、霊場や祈りについて多くの人々に伝えたいという禅師の強い信念があったのでしょう。絵を付すことで、識字能力の有無に関係なく『霊場記』の内容を広く伝えることもできます。『霊場記』を観る人々もまた、実際に歩むことが叶わなかった祈りの道を『霊場記』の中で歩んだことでしょう。

『霊場記』制作背景には、運川寺・白龍禅師による、信仰心篤い多くの人々に対する優しい想いがありました。6月のプログラムでは、運川寺の渡辺光彦ご住職から『霊場記』にまつわるお話をいただきます。皆さんも『霊場記』とともに川上村をひとめぐりしませんか？

コケに魅了された木村全邦さん

森と水の源流館スタッフ

500年の歴史を持つ吉野林業の中心地である川上村は、吉野川（紀の川）の最源流です。源流部の三之公と呼ばれる場所に村が購入・保全するほぼ手つかずの天然林「吉野川源流―水源地の森」（約740畝）があります。



今回は、その水源地の森を管理している「森と水の源流館」のスタッフでコケ植物の研究者でもある木村全邦さんをご紹介します。

「森と水の源流館」の職員に応募した理由は何ですか。

小さな村の取り組みだというのは驚きでした。

平成14年「川上村が原生林を買った」という情報は、大阪市立自然史博物館でコケ植物の標本整理に当たっていた私の耳にも入ってきました。感想は「何で？」謎深かった吉野地方の最源流の森が守られるというのはすばらしいことと同時に、こんな



子どもたちのコケ観察会

そんな折、調査協力のお話をいただきました、思いがけず、水源地の森に関わることになりました。最初は「すごいものが見つかる！」と、学術的評価軸で森を見ていました。ところが、ある日森の中で寝転がって、空を見上げた時「この森すごい！」と、理屈抜きに感動しました。日本各地の森からボルネオの森まで見てきましたが、こんな気持ちは初めてでした。森に恋したのでしようね。そんな時、職員募集の公募が出ました。何だか、森に呼ばれているような運命的なものを感じ、即応募しました。

「森と水の源流館」の魅力は？

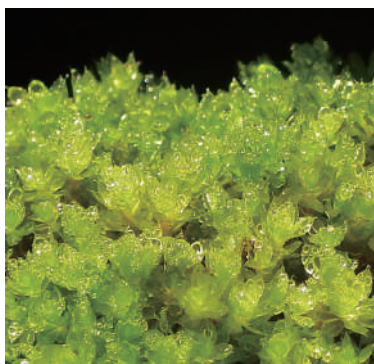
「森と水の源流館」は川上村の自然、歴史、文化が学べる展示

施設ですが、特に面白いのが、色々な人が集まる場所だということです。

私が就職したころには、川上生まれ川上育ち、林業一筋、辻谷達雄館長はじめ自然ガイド、歴史、民俗などを専門に持つ多彩なスタッフがいて刺激を受けましたが、村外からも川上村の自然や文化を守りたいと熱い思いで通ってくださる研究者の皆さん、「川上宣言」に共感して応援してくださる皆さんが集まります。

特に友の会「源流人会」の皆さんの存在は大きく、多くの活動にご参加いただいています。このように、様々なバックグラウンドを持つ皆さんが集まり、学びあい、活動の範囲が広がっていくのが一番の魅力だと思います。

「吉野川源流―水源地の森」の魅力とは



木村さんを虜にするコケ

「百聞は一見に如かず」とだけ、言いたいところです。

私はご案内するときに魅力や大切さを伝えたくて「生き物たちのほたらきで：」「こんな風に水が守られて：」「生物多様性って：」と、ついつい説明しがちです。

本当は、そんな言葉はいらないのだと思います。来た人の感想では「コケがきれいですね」「大きな木が並んでいて感動した」とか人によって言語化したときの表現は違いますが、必ず素晴らしい何かを見つけられる存在感のある森です。

私は入るたびに、この森に守られている感覚を持っています。

だから、この森を大切にしたいと思えますし、皆さんにもそう感じてもらえればとうれしく思います。

木村さんの本場に「水源地の森」に対する思いの強さを感じるインタビューでした。

語らずとも感じてもらえる大自然の案内人ですが、専門のコケのことについて語りだすと止まらなくなる木村さんと「コケ観察会」（7月26日開催）に参加してみませんか。



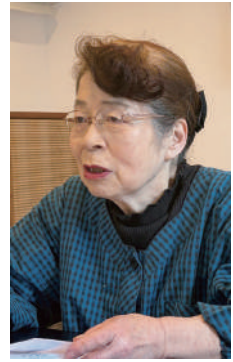
吉野川源流―水源地の森

おもてなしの心をつなぐ

朝日館 女将 辻美美子さん

かつて柏木は、大峰山の修行が盛んな頃に多くの大峰信仰の講の人たちが柏木からの登山や大峰山からの下山の時に宿泊される拠点として多くの人で賑わっていました。

朝日館は明治14年（1881）創業、145年を経過する本当に老舗旅館です。その女将さんである辻美美子さんにお話を聞きしました。



「私が嫁いできたのが昭和46年で、まだ『講』の方たちが多く泊まってくれていたのですが、毎日が忙しくて、主人のおばあさんに宿のことや昔の話を聞きながらあつという間に時が過ぎて行ったように思います」とおばあさんの話を思い返しながら話してくれました。

ある不動窟の営業を行っていました。

「いろいろなお客様がお泊りになつてくださって、大台ヶ原で新種の昆虫を発見されて、そのスケッチを贈ってくださいり部屋の一室に飾っています」これはホシシリアゲームシで三宅恒方博士の逸話として残されています。また、登山家で有名な今西錦司博士が千五百山登頂記念のさいに宿泊されています。

川上村周辺
の自然に惹かれて人が集まる拠点でもあったと感じました。



客室にさりげなく飾られていました



今も現役のかまどと薪ストーブ

川上村の魅力はどんなところで「最近外国の人が2泊、3泊してください、次の日吉野山の桜を見に行き、次の日は熊野の海へ片道2時間かけて行き、また戻って泊

まってくるのです。私には考えられない行動で、聞いてみたところ、閑空から2時間で秘境の村に来られて、そこから2時間圏内で海に行ける。素晴らしい、と言っています」

朝日館の「ゆず羊羹」は有名なのですが、始めたきっかけやこだわりはありますか？



おばあちゃんの味を守る

「これもおばあちゃんから教えてもらったのですが、お茶菓子に出す甘いものとして作ったものでして「うずら豆」か「トラ豆」を煮て皮をむいて、焚いて裏ごしして水出しして灰汁を抜きそれから寒天、砂糖を混ぜて作るので手間がかかっているのです。「ゆず羊羹は、10月から4月の間の期間限定で出していたのですが、お客さまにあることを教えてもらって、夏場のお茶菓子にも出せるようになったのです」

これからの村は、朝日館はどうなりますか？

「今の山の風景を残せたら：」かつては大峰信仰で賑わいを見せた柏木、朝日館も大きく変わったが、人を魅了するものが何もないということではなく、何もなければお客様が自分たちで楽しめる、そんなところであつていいのでは、という思いのよう受け取りました。

お話を伺いに行つたとき宿の前で息子さんとお孫さんと一緒に散歩している時だったので柏木でも赤ちゃんの声を聞くのは何十年ぶりだとのこと、



「ここは2階ですね」とお客様からよく聞かれるんです

「おばあちゃんの話をもっと聞いとけばよかった」という思いを息子さんたちとは日頃話している中で大事なものをちゃんと伝えていかなだなど感じました。



昭和初期の「朝日館」



これからの季節は鮎などが楽しめる料理

かわかみ源流ツーリズムは川上村の魅力は人だと思っています。

朝日館の女将さんに会ってみたいと思う人が、きつというように思っています。

「田舎の人は他所から来た人にも優しく受け入れる心を持つた人が多いわね」と女将さんが言われるように村民がガイドとなつてみなさんをもてなす。みんな村に来る人を迎えている村を目指していきたいと改めて思っていました。

夏のツアー募集予告

実施日:2026年6月27日(土)~28日(日)

宿泊

第一回 絵巻巡礼 川上三十三霊場めぐり (全5回予定)

第1回「絵巻巡礼 川上三十三霊場めぐり」開催予定。文政12年(1829)に完成した貴重な絵巻を手がかりに、白龍和尚の視点で川上村の霊場を巡ります。運川寺を起点に、東川・西河・大滝の札所を専門家解説とともに訪問。現存する寺社だけでなく、失われた霊場の記憶にも触れる“時空を超えた巡礼旅”です。夜は渓谷でホテル観賞も実施予定。歴史・自然・祈りが交差する、通常の観光では味わえない特別企画です。

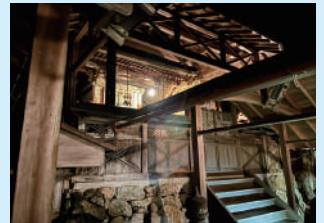


実施日:2026年8月15日(土)

日帰り

川上村高原地区の夏祭り ちゃんごかんご(法悦祭)ツアー

川上村高原地区に伝わる伝統行事「ちゃんごかんご(法悦祭)」を訪ねる日帰り特別ツアーを開催予定! 観光化されていない地域密着の祭りで、外部ではほとんど知られていない“川上村ならではの”貴重な風習を体感いただけます。太鼓や鐘が響く幻想的な祭りの見学に加え、川上村ならではの文化に触れるひとときをお楽しみいただきます。地域の人々との交流や、歴史・風習に触れる貴重な体験も魅力。真夏の川上村で、心に残る一日を過ごしてみませんか。

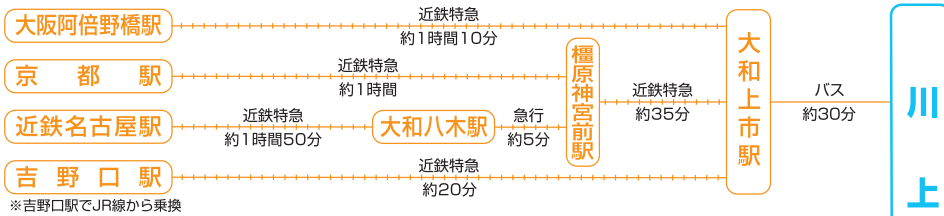


※募集(詳細)開始は5月中旬頃を予定しております。

アクセス



近鉄電車でお越しの方



お車でお越しの方



問い合わせ先



かわかみ
源流ツーリズム
KAWAKAMI GENRYU TOURISM

一般財団法人 かわかみ源流ツーリズム

〒639-3553

奈良県吉野郡川上村大字迫 1335 番地の 3 (川上村商工会館 1 階)

TEL.0746-52-0333 <https://g-tourism.jp/>

